

# 醍醐寺 壁瀨 宥雅(かべせ・ゆうが) 執行長 法話

## 『廻転趣向』



ただいまは、武田病院グループの故者の皆々様の霊に対して、ご列席の方々とともに厳かにご廻向(えこう)をさせていただきました。「廻向」とはどういう言葉なのかといいますと、「えてんしゅこう」、すなわち「回」は回転(えてん)、「向」は趣向(しゅこう)と綴ります。これは人が「徳を積む」ことで、その徳を全ての人々に分け与えよう、というのが本来の意味です。その意味を込めて、お亡くなりになった方々へ読経を捧げ、趣向をする。その行為を廻向と呼ぶようになったのです。

よく「徳を積む」と申しますが、

お釈迦様は、「八万八千の法」をお説きになって80歳でお亡くなりになりました。そして、亡くなられた後、500人の弟子が集まって「結集」という会合を開いて、お釈迦さまから教えていただいた事々々を、皆で語り合いました。そのことを伝えていったのが「経典(きょうてん)」でございます。その「経典」の中で、お釈迦様がおっしゃった言葉を一字一句間違えないように守って行こうというグループと、それを分類しようというグループに分かれました。

分類しようというグループは北のチベットや中国の方へ、また、全てを守るグループはタイやビルマ(現・ミャンマー)の南方へ伝わりました。これが「大乘仏教」「小乗仏教」となり、北と南へと広がっていきます。小乗仏教は、われわれ僧侶のための教えです。大乘仏教は一般の方への教えなのです。この大乘仏教の教えも、僧侶だけ

が守れるものであつてはいけません。一般の人も守れなければいけない。できない意味がないということです。

では、どうしたら、その教えが守れるのでしょうか。そこには「六波羅蜜(ろくはらみつ)」の教えというものがあります。六つの中で、最も大切なのは二番目の「布施行(ふせぎよう)」です。お寺へ納められることとして捉えられていますが、本当の意味は、「自分の前にいらつしやる人」にとって必要なことを、徹底してやらせていただく。他人のために行う。すなわち、社会のためになることを徹底して行うことです。「布施行」さえやっておれば、自分の思い通りの世界になってくる。それができていないから、この世の中はいびつな世界になってしまっている。「布施行」ができるようになれば、バラ色の世界になると考えます。

医療に徹底的に携わっておられる武田病院グループの皆さまは、世の中

の人のためになる医療業務を徹底して日々、実践しておられることに、頭の下がる思いでおります。これからも「布施行」を第一に念頭に置いていただいて、人の命をお救いいただき、世の中と人のための医療にまい進していただきますようお願いいたしますとともに、お祈り申し上げます。



物故者法要が営まれた醍醐寺金堂(国宝)